学校番号	３０５

令和８年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校　改訂　新化学基礎」　（第一学習社）						
副教材等	新課程版ネオパルノート　化学基礎　第一学習社						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日常生活においても科学的な思考ができるように、科学分野での基礎的な知識・技能が身につくことを目標とする。そのために物質を構成する原子や成分としての元素の理解を中心として、さまざまな反応が電子におけるものであることをプリントや小テストを活用し、また検証作業としての化学実験の基本操作についても個別の実技テストなどで習得の確認を行う予定である。これらを通して、科学的な思考力・判断力及び表現力を育成させたいと考える。

2　学習の到達目標

・化学の学習内容が日常生活や社会と関わることを知り、身近な物質への関心を高める。
・主体的に観察・実験などに取り組むことにより科学の方法を学び、探求能力と態度を身につける。
・化学の基本概念や原理･法則を理解し身のまわりの現象をとらえる。
・物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察･実験をおこない、日常生活の中でその知識を生かして問題解決への取り組みができるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	身のまわりの物質について、その成り立ちや特徴を知り、日常生活にどう活用されているかを理解する。実験器具をその目的に照らし合わせて正しく操作できる。	物質の特性や成り立ちを観察・実験などの結果から実証的，論理的に考えたり，分析的・総合的に考察したりしてとらえ、問題解決の手法を考えて表現する。	興味・関心を持った学習内容について自主的に調べ，これまでの学習内容との関連を考察する姿勢が身についている。 実験の結果正しく処理することによって目標とするデータを手に入れることができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	物質とその構成要素・化学結合	物質の分離と元素 物質の三態 原子の成り立ちと電子配置 元素の周期律と周期表 イオン結合 共有結合と分子 金属結合	a：物質を構成する最小単位である原子の名称（元素）とその成り立ちについて理解している。また、その原子同士をくっつけている結合のしくみについて理解している。 b：原子の成り立ちや結合のしくみに関しての考えを、ワークシートや発表において適切に表現している。 c：原子の構造や、結合の種類に関して、高関心を持ち、意欲的に探究しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 実験レポートの考察の内容	実験レポート・授業プリント提出 小テスト
2学期	物質量と化学反応式・酸塩基とその反応	原子量・分子量・式量 物質量と粒子数、質量、体積 溶解と濃度 化学反応式と量的関係 酸・塩基と分類 水素イオン濃度と pH 中和と塩、中和滴定	a：原子の量を扱う際に用いる「mol」の概念を理解できている。また、mol の計算方法を身につけている。 a：中学校までに学習した「質量パーセント濃度」に加え、新たに「mol 濃度」という濃度の単位が出てきたが、単位の意味を理解したうえで、かつ演習ができるように努めます。酸性、塩基性の概念、pH の概念を理解する。 b：上記の概念を理解したうえで、日常で用いられる pH や酸性、塩基性に関しての利用方法を示し、表現できている。 c：mol について、酸・塩基について関心をもち、意欲的に探究しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 実験レポートの考察の内容	実験レポート・授業プリント提出 小テスト
3学期	酸化還元反応	酸化と還元、酸化数 酸化数と酸化剤・還元剤 金属のイオン化傾向 電池と電気分解	a：酸化と還元について、中学校までの理解を基準として、さらに詳しく学習できている。酸化・還元に関しての知識を身に付けている。 b：「電池と電気分解」に関する探究活動を行い、生物学的に探究する方法を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 b：上記の「電池」における発表で、酸化・還元の知識を交えた発表に応用できている。 c：日常で使う電池に関しての興味をもち、意欲的に探究しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 実験レポートの考察の内容	実験レポート・授業プリント提出 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度